

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3646366号
(P3646366)

(45) 発行日 平成17年5月11日(2005.5.11)

(24) 登録日 平成17年2月18日(2005.2.18)

(51) Int.Cl.⁷

F I

B 6 0 K 37/04

B 6 0 K 37/04

B 6 0 K 15/05

B 6 0 K 15/04

B

請求項の数 1 (全 4 頁)

(21) 出願番号	特願平7-262023	(73) 特許権者	000005463
(22) 出願日	平成7年9月18日(1995.9.18)		日野自動車株式会社
(65) 公開番号	特開平9-76796		東京都日野市日野台3丁目1番地1
(43) 公開日	平成9年3月25日(1997.3.25)	(74) 代理人	100064469
審査請求日	平成12年3月10日(2000.3.10)		弁理士 菊池 新一
審判番号	不服2002-21880(P2002-21880/J1)	(74) 代理人	100099612
審判請求日	平成14年11月12日(2002.11.12)		弁理士 菊池 徹
		(72) 発明者	小畑 聖充
			東京都日野市日野台3丁目1番地1 日野
			自動車工業株式会社内
		合議体	
		審判長	大橋 康史
		審判官	清田 栄章
		審判官	飯塚 直樹

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 スイッチノブ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

インストルメントパネルの下側縁に設けられているスイッチノブであって、スイッチノブの前面がインストルメントパネルの下側縁より斜め上方へ隆起突出していること、スイッチノブの上面が平坦な段部に形成されていること、スイッチノブ上面の段部に表示が設けられていること、通常の姿勢で運転席側からスイッチノブ方向を見たときの目線に対してスイッチノブ上面の段部がその目線と交差する関係にあることを特徴とするスイッチノブ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車のインストルメントパネルの下側縁に設けられているスイッチノブに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

図1で示すように、一例として自動車のスイッチノブ4がステアリング2のコラム3の下方におけるインストルメントパネル1の下側縁に配置されているものがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

前記スイッチノブ4の前面はインストルメントパネル1の下側縁と同一面とした意匠の面

を構成しているため、操作する時の目線がインストルメントパネル 1 の下側縁によって遮蔽され、通常の姿勢ではスイッチノブ 4 を視認することができず、上体を傾けて覗き込んでスイッチノブ 4 を視認している煩わしさの問題があった。

【 0 0 0 4 】

本発明の目的は、通常の姿勢で容易に視認可能としたスイッチノブを提供することである。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

本発明は所期の目的を達成するために下記の課題解決手段を特徴とする。すなわち本発明は、インストルメントパネルの下側縁に設けられているスイッチノブであって、スイッチノブの前面がインストルメントパネルの下側縁より斜め上方へ隆起突出していること、スイッチノブの上面が平坦な段部に形成されていること、スイッチノブ上面の段部に表示が設けられていること、通常の姿勢で運転席側からスイッチノブ方向を見たときの目線に対してスイッチノブ上面の段部がその目線と交差する関係にあることを特徴とする。

10

【 0 0 0 6 】

【発明の実施の形態】

以下本発明の実施の形態の一例を図面に基づいて説明する。図 2 において、1 はインストルメントパネル、4 は前記インストルメントパネル 1 の下側縁にヒンジ 5 によって前後方向に回動可能に取り付けられているスイッチノブであって、周知のように図略のフューエルリッドとワイヤによって連結されている。

20

【 0 0 0 7 】

本発明は前記スイッチノブ 4 の前面 4 a をインストルメントパネル 1 の下側縁より所要の幅 B だけ突出した凸部を有した形状とし、上面に段部 6 を形成したものである。

【 0 0 0 8 】

また、図 3 で示すように、前記上面の段部 6 にフューエルリッドオープナーを示す絵、文字等の表示 7 を施すことが好ましい。

【 0 0 0 9 】

本発明は上記の通りの構造であるから、スイッチノブ 4 の前面 4 a がインストルメントパネル 1 の下側縁より所要の幅 B だけ突出した形状を有し、かつ上面の段部 6 には図 2 で示すように、通常の姿勢における目線 E の視野範囲におかれているため、スイッチノブ 4 を容易に視認することができる。

30

【 0 0 1 0 】

また、前記突出した凸部はインストルメントパネル 1 の下側縁であり、比較的に目立たないため、一般意匠面に対して違和感を与えることがない。

【 0 0 1 1 】

また、スイッチノブ 4 の前面 4 a をインストルメントパネル 1 の下側縁より所要の幅 B だけ突出した凸部を有する形状とすることにより、スイッチノブ 4 自体の剛性が向上する。

【 0 0 1 2 】

尚、スイッチノブ 4 は上記の一実施例で述べたフューエルリッドオープナーに限らず、フードのオープナー等インストルメントパネル 1 の下側に設けられるスイッチノブにも適用される。

40

【 0 0 1 3 】

【発明の効果】

以上のように本発明によると、インストルメントパネルの下側縁に配置されているスイッチノブを通常の姿勢における目線で容易に確認することができ、上体を傾けて覗き込んでスイッチノブを視認する煩わしさの問題を解消した利点を有している。

【図面の簡単な説明】

【図 1】スイッチノブの配置を示す図

【図 2】本発明によるスイッチノブの断面図

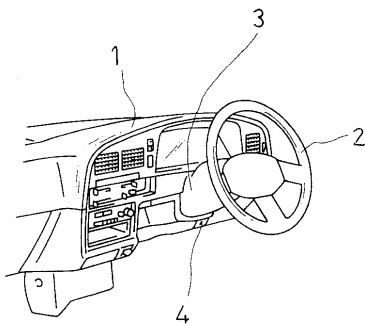
【図 3】本発明によるスイッチノブの斜視図

50

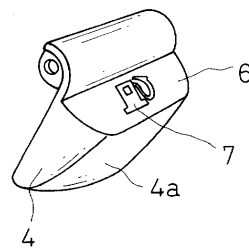
【符号の説明】

- 1 インストルメントパネル
4 スイッチノブ
4 a スイッチノブの前面
5 ヒンジ
6 段部
7 表示
E 目線

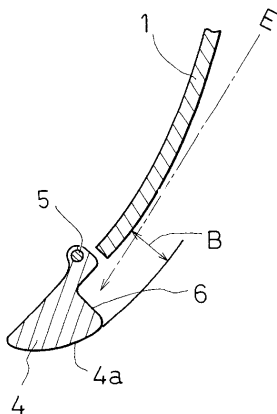
【図 1】



【図 3】



【図 2】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平4 - 3 6 2 4 2 3 (J P , A)
実開昭5 9 - 9 2 9 1 5 (J P , U)